

風見 幽香

(かざみ・ゆうか)

能力：『花を操る程度能力』

所属：第二期紅魔館(第19~21回大会)

O.D.S(第22回大会~)

ファイト・スタイル

その笑顔の下には・・・

非常に狡猾かつ残忍で試合外でのマイクアピールと同様の鋭く相手を決る技を主体として持つ。
しかも単発のスタンド・ダウン攻撃ではなく大半の技が相手を掴み離さない状態で繰り出される。
そんな投打極のうち特に極めを愛用しており、相手の苦しむ姿が一番近くで見えるから、と考えられているが...。
常に攻めの姿勢を見せる彼女であるが、逆に受けには弱いほうであり、それをカバーする形の攻撃型である。
全体的な組み立てはシングルでの効果を考えるより、自身のタッグ・ユニットを有効活用するための技が多く、事実O.D.S以外の選手とは組まないスタンスのためお互いの連携がよく取れ、結果的に非常に的確に試合をコントロールする巧者でもある。

VFT(VenusFlyTrap)

ハエトリソウ。技的にはポストンクラブ、つまり逆エビ固め。
ただし太腿を抱えているため受ける側の背中に凄まじい急角度がついてしまう。
ファンからは『ウォール・オブ・ゆうかりん』とも呼ばれている。
この元ネタはWWE所属クリス・ジェリコの必殺技「ウォールズ・オブ・ジェリコ」
簡単に出来る反面腰と足へ多大な負荷をかけ、腰を完全に相手に落としてしまうと胸が圧迫され窒息されてしまい

実際に世界中で多数の死亡者が出ているので、

安易な気持ちで真似してはならない, Don't try this

魅せ技のために持ち上げているのではない説得力と複雑さが反比例してしまっている。
これをフィニッシュホールドにする幽香の性格・意思こそが、強固な壁になっているとも言える。
その危険さは、LTU防衛戦にて反則裁定を受けるほどである。
(GM軍パチュリーの操作だが、その後裁定処理をする前に気絶し無効に)
なお、バル・ビーナス(元WWE)が使う「ビーナス・フライトラップ(Venis Flytrap)」は、名称こそ酷似しているものの全く別の技(変形の足4の字固め)なので注意。

デージーカッター

立った相手の顎下から打ち抜くように蹴り上げるハイキック。
パンチならばアッパーカットの要領。
腕力の3倍のパワーがある脚力ならば、威力も当然3倍。

コーナーで足踏みアピールをしてから放ったりもする。

その名の由来は、地上物を焼き払うために使用される大型爆弾の俗称から。

直訳すると『雑草刈り』。名前通り目障りな相手への制裁のためにも時折この技が使われる。

元ネタはHBKことショーン・マイケルズ（WWE所属）のスウィート・チン・ミュージック。

ダブルスパーク

コーナー最上段からのダブルスタンプ。押し花スタンプ、向日葵スタンプの別名もある。

技自体は両足で倒れている相手を踏むだけと至極単純だが、それだけに重い一撃であり、ここから丸め込みに繋いでカウントスリーを取ったこともあった。

また当たり所が悪ければ**妖夢**のごとく背骨と内臓が両方とも破壊され、色んなものを噴出させてしまう。

たまに幽香の姿を見て『踏んでくれー!!』と絶叫するファンもいるが、その際身の安全は全く保障できない。

この技のイメージは「**東方幻想郷**」6面ボスである幽香が分身し、画面横幅一杯の極太レーザーを2本、高速で放つ弾幕から取られたもの。弾幕としてのインパクトはトラウマ級であることは間違いない。

魔理沙の代名詞「マスタースパーク」はこの弾幕をラーニングしたものとされる。そこから、俗称として幽香の極太2本レーザーは「ダブルスパーク」と呼ばれるようになっていく。

なお、**東方永夜抄**で魔理沙が使う『恋心「ダブルスパーク」』とはちょっと違うので注意。

現役の選手での使用例はプロレスリング・ノアの佐野巧真選手、試合終盤にコーナートップから相手の腹部目掛けて飛び降りる、あまりのエグさに会場は何とも言えない声で包まれる。

気象衛星ひまわり

立っている相手に対してジャンプし、相手の首周りを両足で挟み込み、そのまま水平に一回転してから相手を倒す技。

元ネタは、人工衛星ヘッドシザーズホイップ。どちらかといえば、技そのものよりも、あまりに秀逸なそのネーミングの方が記憶に残っている。

向日葵落とし

相手の胸を組んで自分の頭上まで肩車になるように担ぎ上げた後、助走をつけながら開脚ジャンプしてマットに叩きつけ、

受けた相手の両腕に自分の両足を通して固める、パワーボムの派生技。

ラストライドと同等の角度で落とすため、これがフィニッシュムーブでも何らおかしくないような凄まじい破壊力を持っているが、

幽香にはさらにVFTとダブルスパークがあるため若干地味に見えてしまう。

元ネタは獣神サンダー・ライガーの得意技、サンダーライガーボム。助走がない場合は単にライガーボムと呼ぶ。

ダブルアームDDT(双子葉式DDT)

正面からダブルアームロックの体勢に相手を捕らえたまま、DDTの要領で頭頂部からマットに叩き付ける技。

通常のDDTと違い両腕を固定した状態で落とすため、相手は着地の衝撃を受け流す事が出来ず首に多大な負担がかかってしまう。

派手さはないが非常に危険な技。

現実ではWWEのミック・フォーリーが『カクタス・ジャックナイフ』の名称で使用している。

その他使用技

拷問コブラツイスト、マウントエルボー連打、チョークスリーパー、起き上がり小法師チョップなど。

単純な破壊力もさることながら、それ以上に相手の精神をも打ち壊すような屈辱技を多く備えている。

戦績

[部分編集]

+ 全戦績 -ネタバレを含むので注意-

タイトル歴

LTU王座

第二代王者([八意永琳](#)・[鍵山雛](#)組)(防衛2回)

人間関係

▶ [レミリア](#),[フラン](#),[咲夜](#),[美鈴](#)

([紅魔館](#)以来の因縁があるが、直接裏切ったと言えるのは[フラン](#)だけであり、そのフランも根に持つタイプではないので激しい遺恨はない模様)

▶ [魔理沙](#),[永琳](#),[雛](#),[M.D](#)

([O.D.S](#)組: [魔理沙](#)は尖兵,[雛](#)はかわいい後輩,[永琳](#)は良き相棒,[M.D](#)はKYと思っている)

▶ [早苗](#)

(遭遇初期から捻じ伏せた事により狙われている。幽香自身は[早苗](#)の成長を面白がっているふしがあったが、35回大会後に[ゆうさな](#)コンビ結成に至る)

▶ [GM天子](#)

([天子のケ](#) に敷かれる会)の被害者になりかけ、明確な敵となった)

▶ [M.Dカップ](#)

(強い嫌悪感: [夏フェス](#)興行の1つ[最終鬼畜全員MDinU3](#)にて[M.Dカップ](#)が脱落后...)
[にとり](#)との関連はあくまで謎)

▶ [霊夢](#)

(堕ちた腋巫女。幽香を初めてピンフォールした相手として、遺恨が勃発した)

▶ [リグル](#)

([夏フェス](#)のアシスタント。夏の妖怪コンビとして興行を盛り上げた。後には必殺技を伝授している)

▶ [萃香](#)

(屈辱の失神KOをされた相手として遺恨が勃発)

入場曲

今昔幻想郷 ~ Flower Land

最凶の壁 第19回大会～第32回大会

東プロ初登場は第19回大会、イベントマッチ妖夢五番勝負の2試合目。
イベント管理人紫の予定では藍が当日発表されるはずだったが、
選手入場の時刻になっても藍はリングに現れず、代わりに魔理沙が登場。
控え室で藍を気絶させたと発言し、季節外れの向日葵の花を差し出した。
この意図を理解した紫は急遽出場選手を変更して、これが幽香の東プロ初参戦となった。
元来の性格や認知度からいってただ事で済むはずは無いことが予想され、
その予想通りに妖夢を散々痛めつけた挙句にレフェリーストップになる程の一撃を打ち込み、
あまりの展開に会場には叫び声が溢れた。

翌第20回大会では正式に第二期紅魔館の一員として登場。
今度は次世代アイドルレスラー兼清涼剤として人気の高まってきていた
早苗(守矢神社)を徹底的に痛めつけ、
更に試合後のマイクアピールで早苗の精神までも破壊、
一時的ながら試合参加拒否状態にまで追い込んでしまう。

更にその翌第21回試合では所属していた紅魔館当主フラン追放にも噛んでおり
所属軍団がO.D.Sへ転換後、事実上軍団のトップ・最凶ヒールとして東プロに君臨してしまっ

た。
GM軍登場による経営権争いには初回から交渉決裂。
共闘を持ちかけたGM天子をデジカッターで葬り、続いて行われた緊急試合にはそのまま出場し
元LTW王者のもこけーねを擁するGM軍を自らの手で跳ね返した。

今までO.D.Sの中心人物として全ての組織・軍団への敵対的行動を向けていたが
GM軍にすらそれを仕掛けたことで、ナチュラルヒールとしての立ち位置を確立した。
また、ピンフォール・タップアウトを喫したことがなく、事実上の無敗状態であった。
(対本部軍イリミネーションマッチで栞に不覚を取ったのはOtTRルール。
また、夏フェスで魔理沙のドラゴンに沈んだのはあくまでも赤M.Dである)、

+ 最凶の亀裂、そして変革 第33回大会～

+ 最凶の本質